

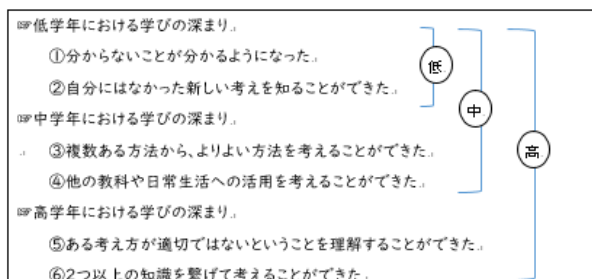
南足柄市立福沢小学校

研究テーマ：『主体的な学びを育てる授業』

～「学び合い」を充実させ、すべての子どもが学びの深まりを実感する～

1 実践の目的

これまでの研究で、課題の解決に向け、互いの考えを伝え合う活動をとおして、学びの深まりを実感するという「学び合い」を大事にしてきた。この学習スタイルを継続することにより、友だちと学び合うことのよさが児童にも浸透してきた。また、「学びの深まり」の具体の姿を低・中・高学年ごと整理することによって、成果を明確にできるようにしてきた。そこで今年度は、具体の姿を基にして、授業の中で表れる、より多様な児童の学びの姿をとらえ、検証できるようにしたいと考えた。そのことが市の研究主題「夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子どもの育成」につながると考える。



「学びの深まり」の学年ごとの定義
福沢小学校 令和5年度 研究紀要より

2 実践の内容

(1) 数学的な見方・考え方を働かせた探究的な学習の推進

既習と未習を整理し、単元や本時のゴールを明確にし、児童と共有するようにした。「どうやって解決したらいいんだろう」という切実感のある問いを引き出し、めあてを設定するとともに、解決までの見通しを

もたせるようにした。

また、児童が自分の考えをもつために、自力解決の時間を生かすようにした。既習事項を使ったり、図や表、グラフ、式や言葉などで表したりしながら、自分の考えを分かりやすく表現させるとともに、それぞれの考えを関連付けさせるようにした。

そして、学習内容や児童の実態と合わせて「学び合い」を行うことで、表現力を養ったり友だちの考えと比べたりしながら、互いに関わりながら問題解決するよさを実感できるようにした。

さらに、数学的活動を重視した。学習内容を日常の様々な事象と結び付けて考えられるように、具体物を操作する活動や、体験活動、考えを説明する活動を充実させていった。

授業の終末の場面においては、めあてに立ち返り、児童にとって納得感のあるまとめにするようにした。

(2) 「学び合い」の充実

全体での話し合い、グループ学習やペア学習など、さまざまな「学び合い」の場面を、学習内容や児童の実態に合わせて適宜設定する。自らの表現力を養うほか、考えを伝え合う中で友だちの考えを知ったり、自分との違いに気付いたり、よりよい課題解決や合意形成を行う場として生かせるようにした。友だちやクラスの仲間と話し合い、支え合う活動によって学びに向かう意欲を高められるようにした。

（３）振り返り活動の充実

授業の終末に、振り返り活動を行った。発達段階に応じた方法を取り、継続的に行うことで、その日の学習の定着や考えの再構成を図ったり、今後の学習に生かしたりすることができるようにした。

その際、単元のキーワードや、「学びの深まり」につながる視点を提示して行った。

（４）タブレットなどのＩＣＴ機器の効果的な活用

ユニバーサルデザインを意識し、どの児童にも分かりやすい授業づくりをめざした。自分の考えを整理したり、友だちと考えを伝え合ったりする場面などを選び、ＩＣＴ機器を活用した。例えば、オクリンクを使って考えを共有したり、比較したりしながら多様な考えを整理する機会をつくるなどした。

また、ドリルパークで自分に合った問題に個別に取り組むことで習熟を図ることも行ってきた。

３ 実践の成果と課題

学年や、発達段階に合わせた授業の基本的な流れ《「課題の把握」→「自力解決」→「学び合い」→「まとめ・振り返り」》を基に実践していくことで、児童が安心して授業に向き合えるようにすることができた。そのことが探究的な学びに向かう基本となっているといえる。

また、さまざまな「学び合い」の場面を、学習内容や児童の実態に合わせて適宜設定することで、児童相互に関わり合いながら課題解決に向かうことができるようになってきていることは大きな成果と言える。

振り返りの活動を継続することで、自身のできたことや課題、友だちの意見のよさ

に気付くことができる様子も見られた。この成果は、南足柄市学びづくり研究に関する実態調査（４月・１２月実施）においても、協働的な学びに関する項目について肯定的な回答率の上昇という結果からも見てとれる。

本校の児童の課題として、「基礎基本の学力定着に関わる個人差」「学習意欲や探究心の低下」等が見られる。その際に、必ずしも本校で従来定義付けしてきた「学びの深まり」の定義に合わない児童もいると考える。また、中にはその定義の内容に到達した上で、あるいは到達しないまでも、その児童なりに学習へ向かう意欲を高める様子も見られる。一部の児童が定義に到達したことをもってよしとするのではなく、その姿を基にして多様な児童の姿をとらえ、検証できるようにしたい。

そして、振り返りを継続することで、その量だけでなく、質的な高まりや、書いたものを積み上げるよさを児童自身が感じられるようにしていきたい。「『学び方』を学ぶ」場面にもできるようにしたい。

４ 今後の展開

「学びの深まり」を見せる姿は、教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる姿であると考え。本校では、その過程で「学び合い」を行うことによって主体性が育つと考え、実践を続けてきた。今後は、児童自身がよりよい課題解決のために「やってみよう」「聞いてみたい」「伝えてみたい」など主体的に学ぶ様子や、よりよい授業改善のためのきっかけを、児童の姿から見取り、考えられるようにしたい。その主体的な姿は、児童が今後１０年後、２０年後など将来向かっていく社会や時代に必要な力であるという見通しをもって指導にあたりたい。